

平成23年度 青雲高校 学校評価シート

* a:よくできた b:できた c:あまりできなかった d:できなかった
* 成果の数値は5点満点に換算したものである。

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価	学校関係者評価	今後の方策		
学校運営	開かれた学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	実践目標	学校ホームページや「青雲通信」などの定期的な発行物の充実を図り、学校・家庭・地域との連携を円滑に進める。		「青雲通信」などの定期的な発行物や学校HPは役立っていますか。 成果 3.64		内評 内容価	定期的な発行物や学校HP、各種の行事などを通じて家庭や地域との連携を深める努力が感じられますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの作成にあたっては各分掌との連携を深め、生徒や保護者等のニーズに沿った情報の発信に努めたい。 ・青雲通信においては、各分掌から出されるプリント類との重複を避けるとともに、生徒の目を引きつける内容にしたい。 ・オープンハイスクールと保護者授業参観とを別々の日程で実施したいが、それぞれをスクーリング日に実施した場合、面接指導との関係で運営に必要な職員数が困難になるという問題が生じる。そういった状況のなかでよりよい成果をあげるための工夫を行う必要がある。 ・1年次保護者会においては、新入生が学校生活に適応し、意欲的に活動できるための一助となる有意義なものにしたい。 ・1年次保護者会と保護者授業参観のそれぞれの目的に沿った内容の学校説明とすることに心掛け、説明内容の重複を避けたい。 ・教職員による評価と生徒アンケートの結果との差は学校行事に参加する生徒の割合が低いからだと思われる。人間関係が希薄な通信制高校にとっては行事への参加が果たす役割は大きい。その意味からも生徒が魅力を感じる行事にするための検討を続けたい。
			成果	4. 22	青雲通信(年6回発行)などの定期発行物(定期発送やホームルームで配布)を通じて生徒・保護者の必要とする情報の発信に努めた。今後さらに、生徒の目を引きつけるとともに、保護者にとってもよりわかりやすく、読みやすい内容にするための工夫や改善を図っていく必要がある。学校ホームページにおいては、内容の更新に努め、最新情報の発信に心掛けた。生徒・保護者だけでなく、地域住民等への情報の発信源となる、ホームページづくりに努めたい。					
		実践目標	オープンハイスクールや保護者授業参観、学校行事や地域貢献事業などを通じて、家庭・地域との連携を深め、本校教育活動の理解と協力を得る。		学校行事や文化祭・クリーン作戦などに参加しましたか。 成果 2.26		評価			
		成果	3. 84	オープンハイスクールは昨年の2倍の参加者があった。中学生やその保護者にとってなじみの薄い通信制高校に対する理解や認識を深めることができた。ふれあい祭には多数の保護者や地域住民が来場し、本校教育の一端を理解して頂けたのではないと思う。生徒のふれあい祭・春の交流会・クリーン作戦などの学校行事への参加者数については、ほぼ例年通りであったが、秋の遠足は昨年の2倍の参加者があった。生徒同士、生徒と教員、生徒と地域社会とのつながりをより強固にしていきたいにも、学校行事への積極的な参加を促すための取り組みを進めていく必要がある。						
	生徒指導	生徒指導方針の確認と指導体制の推進	実践目標	安全な学校、より健全な学校の創造を目指し、校門立番や校内巡視の徹底、関係機関との連携、校内全面禁煙の定着等を進める。		禁煙指導や校内巡視を通して安全な学校づくりが進められていると感じますか。 成果 3.19		内評 内容価	安全で楽しい学校生活を送ることのできる環境づくりが進んでいると感じられますか。	<ul style="list-style-type: none"> 安全で楽しい学校生活の実現のために、引き続き、校内を巡視する職員と中庭や校門等に常駐する職員が連携して、健全な学習環境の維持に努めなければならないのは当然である。他方、一般生徒が問題行動等を目撃した際に生徒が行うべき行動について、生徒向けのプリントや入学式、始業式に行われる生徒指導部からの注意事項の中で少しずつ触れていき、いつまでも教員任せではなく、将来的には「自分達の学校環境は自分達で守る」という気運が高まることを目指し、来年度については「小さな芽生え」を期待して全校生徒に問いかけていきたい。
			成果	4. 16	教員の立ち番や校内巡視で、喫煙等の問題行動の抑止に備えるだけでなく、より多くの生徒達に迷惑行為を許さないという意識を持たせる指導を並行して行うことによって、生徒の帰属意識を高めたい。					
			実践目標	生徒の学校行事への積極的な関わりや参加者数の増加のための方策を研究・工夫し、帰属意識の涵養を図る。						
			成果	3. 31	もっと生徒の興味関心を引くような、内容のある学校行事を増やしていきたい。					
		生徒の内面の理解を図る工夫	実践目標	各学校行事の内容を工夫し、生徒が地域と関わり、貢献できる機会を増やす。		キャンパスカウンセラーがいろいろな相談にのってくれることを知っていますか。 成果 2.58		内評 内容価	生徒の内面を理解し、支援する努力がされていると感じますか。	
			成果	4. 00	今年度のカウンセリングは、前期6回(延13人)・後期6回(延14人)実施した。カウンセリング後、適切にカウンセラーと担任とがカンファレンスを行い、生徒の理解や支援に努めた。研修会ではカウンセリングマインドの基本姿勢やエゴグラムを使って教員が自己理解したうえで生徒に対応する大切さを学び、教員の資質向上につながり、生徒理解の共通認識を深めることができた。					
			実践目標	「相談室だより」や教育相談に関わる掲示物、学校HP等を通して、カウンセリング情報の広報に努める。						
			成果	3. 94	前期・後期開始前や日程追加等変更時に「相談室だより」を発行し、カウンセリング実施日程のお知らせを行った。学校HPに掲載した「カウンセリング予約状況」がよく活用され、昨年同様、事前予約だけで毎回詰まっている状況であった。					

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価	学校関係者評価	今後の方策
進路指導	進路指導体制の充実	実践目標	定期発送で「進路のしおり」を郵送するとともに、各種説明会等にて情報の提供に努める。		「進路のしおり」を読んでいますか。 (2・3・4年次のみ) 成果 2.99		進路に関する情報の生徒への提供については、さらに有効にできるようにしたい。たとえば、配布するプリント類のデザインなどにも工夫を加え、できるだけ、生徒の興味関心をひくことができるようにしていきたい。説明会等の行事についても参加を促すような工夫を十分にしていきたい。	
		成果 4.16	「進路のしおり」については、3・4年次だけでなく、今年度から、基本的なガイダンスを内容とする2年次生版を新たに作成した。進路指導室の内外にて各種ポスター、パンフレット、冊子類の掲示、配布を行った。また、「進路のしおり」、進学・就職の各種説明会で配布した資料も学校HPに掲載し情報の提供に努めた。					
	進路指導	実践目標	進路指導部と担任が情報を共有しながら、協力して生徒の進路実現を支援する。		トキメキ仕事体験ようごレジャについての案内をしていますか。 (2・3・4年次のみ) 成果 2.16			
		成果 3.88	進路相談を行った生徒の情報を担任にフィードバックした。進路指導部と担任が協力して、面接練習や自己推薦文作成の指導などを行った。					
	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上	実践目標	関係機関と連携して、インターンシップを実施し、生徒の進路意識を高める。		働くことの大切さや仕事の探し方がわかりましたか。 (2・3・4年次のみ) 成果 3.26			
		成果 3.78	県内36校の専修学校で行われる「トキメキ仕事体験ようごレジャ」をインターンシップとして実施した。7名の生徒が11校に参加した。職業についての意識の向上、進路を真剣に考えさせる手がかりとなるように努めた。					
学校運営	実践的指導力の向上	実践目標	スクーリング時において、学校評議員による授業参観を実施する。また、生徒の状況把握も兼ねて、管理職を含む多数の教員が授業教室を適時巡回する。		特別支援教育・学校教育相談における研修会の成果があがって、多様な生徒への対応については教職員が徐々に自信を持って当たれるようになってきた。一方で、低年齢化に伴う卒業後の出口確保が新たな問題となり、学力向上が大きな課題となっている。生徒に学力をつけるために、スクーリングとレポートのあり方についての研究や質問教室の開設などに向けて組織的な取り組みを考えたい。			
		成果 3.84	学校評議員には生活体験発表校内選考会を参観いただいたため、直接の授業参観は実施できなかった。管理職による巡回は随時行われているが、スクーリング日における教員の授業参観は時間的に難しい。実践的指導力の向上に向けた積極的な取り組みを考えていきたい。					
	教職員の資質向上	実践目標	当面する諸課題に対し、生徒指導・教務・教育相談・人権教育・情報図書等の各分掌が全教員対象の研修会を企画し、計画的に実施する。			働くことの大切さや仕事の探し方がわかりましたか。 (2・3・4年次のみ) 成果 3.26		
		成果 3.94	研修会の実施計画に沿って各研修会がもたれた。本校教職員のニーズの事前調査をもとに企画され、効果が上がっている。必要に応じて事務職員等の参加も得て充実したものになった。一方、新たな課題に向けての研修会が必要になってきている。					
	計画性を持った研修の実施	実践目標	特別支援教育コーディネーターを軸に研修を進め、教職員全体の支援能力の向上を図る。			防災や交通安全に関する知識が身につく意識が高まりましたか。 成果 2.92		
		成果 3.50	特別支援教育に関する研修会は講師選択、研修内容の精選に留意した結果、教職員の支援を助けるものとなった。参加した事務職員からも好評であった。					
危機管理体制の整備	実効ある学校マニュアルの策定	実践目標	本校の実情に応じた危機管理マニュアルを作成する。		危機管理マニュアルを年に一度は教職員全員が目を通して対応力を付けると同時に、継続的な改良が加えられていくシステム作りに努力したい。不審者対応の実践的な研修会を警察署と連携して実施する予定である。			
		成果 3.22	危機管理マニュアルは作成されているが、実効性を上げるためには定期的な研修および見直しをシステムとして組み込む必要がある。					
	家庭・地域・関係機関と連携した危機管理体制の推進	実践目標	「通信制高校に合った家庭・地域・関係機関との連携体制」を検討・工夫し、防犯に関する教職員の安全対応能力の向上を図るための取り組みを行う。			防災や交通安全に関する知識が身につく意識が高まりましたか。 成果 2.92		
		成果 3.06	教職員に向けて警察署と連携しながら研修を進めているが、不審者対応等不十分な点も多い。家庭へ情報提供は定期発送物によるものに限られ、地域との連携は進んでいない。					
	教員の防災教育に係る指導力・実践力の向上	実践目標	災害発生時に生徒が的確に判断でき、安全な初期行動がとれるように、防災管理組織と実際の任務についての確認を行う。			防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたHR指導が行えるようになる。		
		成果 3.06	年度当初に、防災管理組織とその任務を全職員で確認した。また6月のホームルームで災害発生時の避難について生徒に説明・確認をした。					
実践目標	防災マニュアルの策定や交通安全に関する研修会の開催等により、自他の生命を尊重する意識を高め、より具体的事例をもとにしたHR指導が行えるようになる。		マニュアル策定や研修会実施の効果がHR指導で生きているよう教員の努力が続いている。人権教育研修会の「防災と人権」と題した講演が、防災教育にも役立つ。					
成果 3.44	マニュアル策定や研修会実施の効果がHR指導で生きているよう教員の努力が続いている。人権教育研修会の「防災と人権」と題した講演が、防災教育にも役立つ。							

領域	評価の観点	評価項目	実践目標と成果	自己評価	生徒アンケート	生徒評価	学校関係者評価	今後の方策	
学校運営	基礎・基本の定着	生徒の学力の把握と評価基準の設定	実践目標	本校の実情に合わせた基礎学力の定着を目指した学校設定科目を設置し、上位科目の学習につなげる。			評価内容 通信制の学習システムを理解させ、基礎基本に戻って生徒の理解を助ける努力がされていると感じますか。	総合的な学習の時間の1年次科目は「学習の方法」である。生徒の青雲高校での学習全般に関わるオリエンテーション的な重要な科目になっている。1回目のスクーリングまでに、できるだけ「学習のしおり」を読んでレポートに取り組んでおくことを生徒に推奨したい。数学・英語・社会の入門科目では教科書を見なくてもレポートを完成させられる内容も多い。しかしながら、今後の必修科目へつなげる重要性をスクーリングやレポートの指導欄でわからせたい。教科書や学習書をいねいに読んで復習することが、上位科目の単位修得、ひいては卒業への近道となっている。	
			成果 3.81	「数学入門」は分数計算の問題を、「英語入門」は指示代名詞や形容詞を減らして基本的な部分をそれぞれ増やしている。また、「社会入門」は中学校教科書をもとに編集した教科書として使用する独自教材を作成した結果、適切な学び直しが可能となっている。また、総合的な学習の時間で「学習の方法」について理解を深める取り組みを推進している。		青雲高校ではどのようにすれば単位が修得できるかが分かりやすいですか。 成果 3.53			
	実践目標	事務部と教職員が連携して、環境への配慮をしながら教育活動を進める。			評価 ・通信制のシステムについてはきめ細かい指導により徐々に慣れていくことができる。基礎基本に戻ることが必要だが、先生方の工夫や頑張りというより本人の学習意欲が問題。 ・入門科目で基本的な部分を固め、「学習の方法」でシステムを理解させ、生徒の理解を助ける努力がされている。生徒評価も高い。 ・単に卒業を目的とするだけでなく、学力の向上を目指すべき。卒業後の進路実現に向かっていく志向が生まれるシステム作りが重要。 ・不登校の生徒が多いなかで、丁寧に分かりやすく理解させている。それによって更なる学習意欲と学習レベルの向上を期待する。				
	成果 3.81	兵庫県が取り組んでいる「環境率先行動計画」において本校は「印刷用紙の削減」を中心に取り組んだ。原稿内容の見直しによる枚数削減や、必要とする印刷部数の精査による残部の縮小、裏紙利用等を全職員で実践した成果として、印刷用紙購入量が昨年を大幅に下回り目標を達成できた。今後も全職員での取り組みを継続して「人にも環境にもやさしい教育活動」を進めたい。		他の学校にはない入門科目(英語・数学・社会)があって、学習しやすいと思いますか。 成果 3.76					
事務部と教職員との連携	事務部と教職員との連携による生徒支援の充実	実践目標	学校徴収金の徴収をはじめ、レポート・定期発送の受け渡しや各種の事務手続きについて事務部と教職員の連携を密にし、生徒の学習が順調に進むよう支援する。			事務室の窓口や電話での説明は分かりやすいですか。 成果 3.32	限られた予算・施設という制約はあるが、教職員としっかりと連携し、今後も学習環境を整え、事務手続き等の改善に取り組んでいきたい。また、電話の取次ぎや、窓口での対応についても、配慮を要する生徒についての情報を教職員と共有するなどして把握し生徒の学習活動を支援したい。さらに、校内での各種研修会にも積極的に参加し、学校職員としての研鑽に務めたい。		
		成果 3.88	本校は事務手続きが非常に多く多岐に渡っているが、生徒への連絡・説明等をスムーズに、また丁寧にしよう努めている。事務部と教職員の連携なしには生徒の学習活動は成立しないこともあり、「よく連携が取れている」と感じる。ただ、定例となった作業の中にも改善すべき事務作業が潜んでいるように思えるので、さらに円滑な連携体制が形成できるよう見直しを心がけたい。						
安全・健康教育	事故防止の工夫と救急処置の対応力を高める	実践目標	安全点検を定期的に行い、救急処置などの安全教育の研修会等を実施する。			成果 4.00		生徒に健康診断の重要性を訴え、受診率のアップに努める。保健だよりを通して、麻しんなどの予防接種を受けるよう勧奨する。	
		成果 4.00	毎月安全点検を行い、良好な学習環境の整備に努めた。不良箇所については事務室が迅速に対応し、多くの不適箇所の整備が行えた。普通救急救命に関しては、指導員の資格を持っている本校卒業生が講師となり講習会を実施した。またスクーリング時には職員はQマスク(人工呼吸用携帯マスク)を携帯し万一のための救急処置が取れるように努めている。						
健康に関する認識を高める取組み	健康に関する認識を高める取組み	実践目標	健康診断の受診率を高め、事後指導の徹底を図るとともに、保健室利用者への丁寧な対応に努める。			成果 3.85			
		成果 3.85	「保健だより」を通じて生徒の健康への関心を高めるよう努めた。今年度も胸部レントゲン間接撮影に関しては1年次生以外にも自費による受診機会を設けた。受診率に関しては4年次生以外では昨年度より向上した。健康診断終了後は個別に治療勧告を行った。保健室に来る生徒に対しては丁寧な対応を行うことができた。						
課題教育	人権教育	人権教育推進体制への取組	実践目標	長期的な視野に立ち、4年間を見据えた人権学習を進める。			人権HRを通じて命の大切さや震災の教訓について理解できましたか。 成果 3.59	多様な生徒が在籍するなかで、人権HRでは、生徒に身近な人権問題を取り上げ、生徒一人ひとりの人権意識の高揚をさらに図れるよう、今後も工夫したい。人権HR教材については通信教材として研究を重ね、生徒が興味をもち、わかりやすいものを作成していきたい。「生徒の生活や人権意識を的確に把握することにより課題を明確にし、具体的な学習の目標を設定したうえで人権尊重の精神を育成する。」という人権学習の目標を今後も希求していかなければならない。	
			成果 3.59	「防災と人権」というこれまでにない内容で人権学習を行った。生徒の評価も高く、風化させてはならない内容でもあるので、今後は、4年間の学習計画に組み込んで、定期的実施していく必要がある。また、これまでの実績を元に、「身近な人権」を軸にした4年間の学習計画を構築必要がある。人権HRに出席できなかった生徒が定期発送に同封した資料に目を通し、理解を深めているかどうかは、生徒アンケートからは見えてこないため、今後、質問の内容を見直したうえで興味関心をもてる教材作りを進めていく必要がある。					
			実践目標	多様な生徒が在籍する現状を踏まえ、各部・各教科と緊密な関係を取り、生徒一人ひとりを大切に人権教育推進体制を構築する。					成果 3.63
			成果 3.63	個々の生徒を大切に人権教育の理念は「特別支援教育」・「心のサポートシステム」の実践も含め、浸透している。今後も一人ひとりを大切にする教育実践を目標として努力したい。					
新しい通信制教育	インターネットの活用による新しい通信教育の実現	インターネットの活用による新しい通信教育の実現	実践目標	Seiun-Webスクールや青雲eラーニングを使い、生徒の学習支援を進める。			内評容価 新しい技術を使って、生徒の興味関心を高めたり、時間の不足を補ったりする工夫がされていますか。 評価 ・eラーニングの導入等により、生徒が取り組みやすい環境づくりが工夫されている。 ・生徒アンケートや内部評価で肯定的な回答が多く寄せられているので、生徒のニーズを掴み取り、学習が進むよう改善して欲しい。 ・Seiun-Webスクール・青雲eラーニングの使いやすさについての生徒評価も高く、新しい技術を使って生徒の興味関心を高め、時間の不足を補う工夫がされている。 ・eラーニングはおおいに評価できる。ネットを含めた情報社会のなかで、ツールとして生徒が利用しやすい工夫がもう少し必要。 ・生徒の興味関心が高まり、身近に学習支援が受けられるというインターネットの環境がもつ利点を更に工夫され、生徒の学習意欲につながることを願う。導入がとてもしっかりしやすい。	インターネット環境の中で、存分に活用するには、ハード・ソフト両面での充実ももとより、生徒および教職員の技術に対する理解、基礎的なスキルアップ、さらには技術の未来を展望する力も必要になってくる。青雲高校の限られた資源の中で、できる限り有効な方策を、開かれた環境の中で実現できるよう、現行のSeiun-Webスクールや青雲eラーニング、またホームページなどのさらなる活用・発展をめざしていきたい。	
			成果 3.56	インターネット環境が、携帯電話・スマートフォンなども含めて、多くの生徒にとって一般的な環境になりつつある。生徒アンケート及び校内評価を見ると6~7割の肯定的回答が見られ、支援の場としてインターネットが活用されていることがよくわかる。インターネットによる放送視聴や電子機器を使った学習そのものについては、大きな変化は見られず、さらに研究が必要とされる。		Seiun-Webスクール(インターネット上のRS個人票など)や青雲eラーニングは使いやすいですか。 成果 3.33			